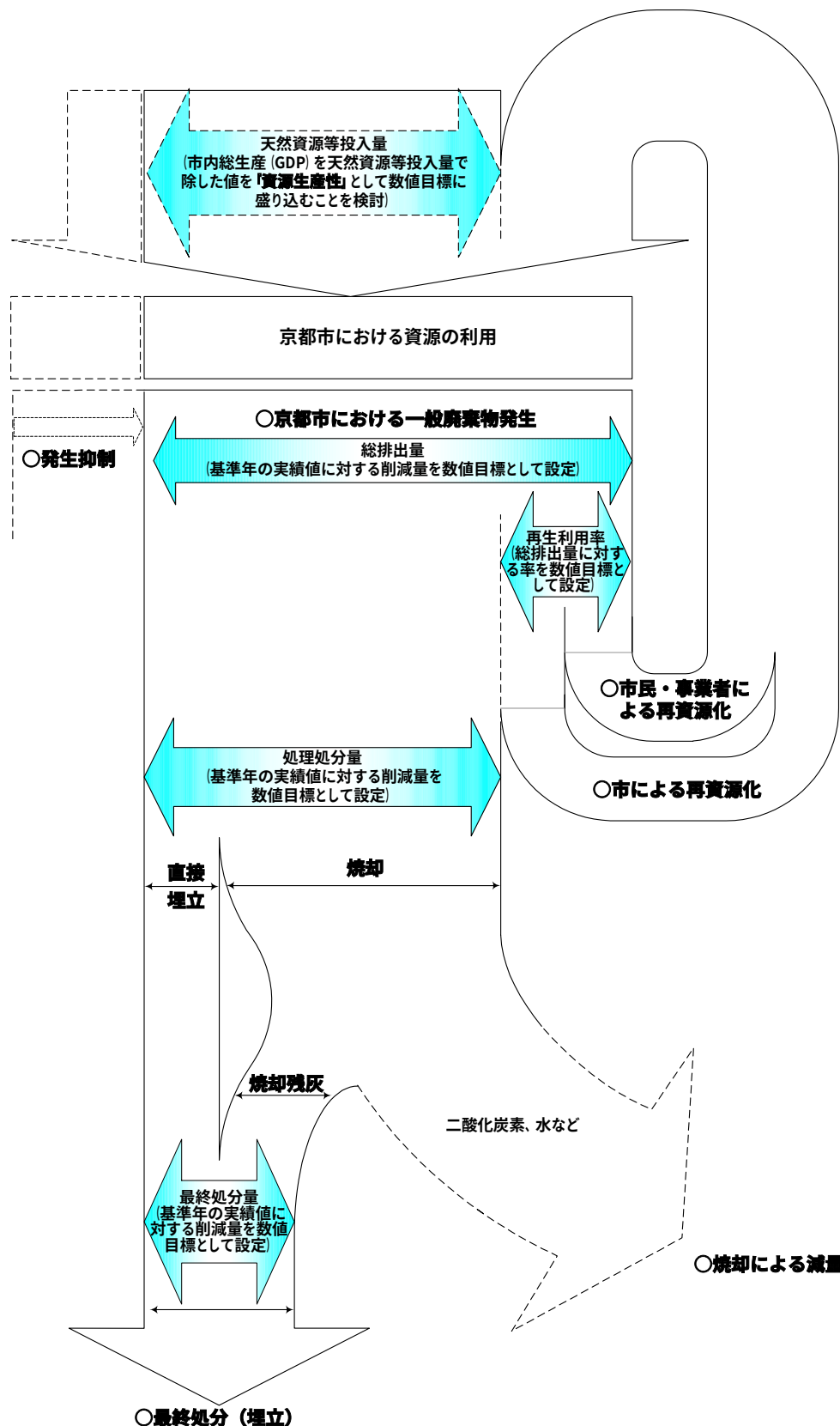


§ 4 新しい計画の目標は？

ごみ量についての数値目標としては、①ごみの総排出量の削減率、②再生利用率、③市の処理処分量の削減率、④市の最終処分量の削減率を、設定すべきであると考えます。

また、国の循環型社会形成推進基本計画で示されている資源生産性（いかに、より少しの資源で、より大きな豊かさを得るかを表す値）や、ごみ減量に伴う二酸化炭素排出量削減率などについても、目標に盛り込むことを検討すべきであると考えます。



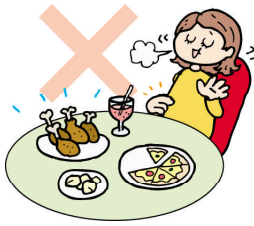
また、市民・事業者・行政の取組に関連する数値目標も検討し、それらを継続的に把握していくことも必要と考えます。

例えば…

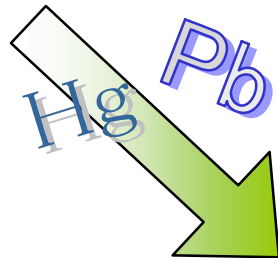
○環境に配慮した生活様式や事業活動に関する指標

循環型社会ビジネスの規模 	環境家計簿の普及率 	KES[※]やISO14001[※]の 認証取得事業所数 	フリーマーケット の開催件数 
---	--	--	---

○ごみ減量化への取組に関する指標

食べ残し削減率 	環境配慮型販売システムの 利用率 	リターナブル容器への 移行率 	缶・びん・ペットボト ル収集への協力率 	拠点回収への 協力率 
--	---	---	---	---

○適正処理に関する指標

二酸化炭素削減率 	ダイオキシン類削減率 	重金属類(水銀、鉛など) 削減率 
---	---	--

なお、以上に示したような数値目標は、ごみ量に関連するもの、取組に関連するものいずれにしても、市民の方に身近なものを例にとるなど、分かりやすい形で示すことが重要であると考えます。